

MOT MAINTENANCE

モトメンテナンス
特別編集



絶好調方程式

「摩擦抵抗」を減らし
よりスムーズな作動性を追求!!
それを可能にするのがスーパーゾイル

バイクは機械である。乗り続けることで摺動部には磨耗が生じ、気がついたときにはメカノイズを発生させていることが多い。時には「部品交換」しなくてはいけないこともある。

エンジンノイズは気にしていても、車体からのメカノイズや各部の作動不良には、意外にも無頓着なライダーが多いようだ。そんなメカノイズの低減やスムーズな作動性を維持するために必要不可欠かつ効果的なのが、各種ケミカルと呼ばれる商品である。

ここでは「スーパーゾイル」シリーズに着目し、大切な愛車のベストコンディションを目指したメンテナンスを実践。

高性能ケミカルを利用すれば、想像していた以上に素晴らしい結果を得られるものである。



ZOIL

www.superzoil.com

PAPA
CORPORATION

高性能ケミカルを使つて愛車イキイキ!!

「スーパーゾイルチェーンルーブ」編



チェーンノイズが気になってからでは正直遅い!! しかし、ノイズが気になってからでも手遅れではない。グリスアップ前には数キロ走行し、チェーンを「温める」のが効果的だ。

✕	メカノイズ放置	チェーン伸び	磨耗	部品交換
○	メカノイズ	注油	作動性アップ	消音
◎	メカノイズ	洗浄	注油	作動性&ライフアップ

SUPER ZOil CHAIN LUBE 220ml

金属表面改質剤配合
ドライブチェーングリス
税抜価格◎2000円

メンテナンスが初めて実践もしくはは実践したバイクメンテナンスのひとつにドライブチェーンへのグリスアップがある。原付からオートバイリッターモデルまで、機種を問わずドライブチェーンのメンテナンスは特に重要である。金属材料の高性能化やドライブチェーンの製造ノウハウの確立によって、70年代以前に製造されたチェーンと現代のチェーンでは、それぞれ「月とスッポン」のような違いがある。エンジンの高性能化によって高性能タイヤが開発されたが、それと同時に、ドライブチェーンの高性能化も急務になったのが70年代初頭である。60年代以前は、走行中にチェーンが切れてクランケースを叩き割るといっ



ドライブチェーンやスプロケットのライフ(寿命)は可能な限り伸ばしたいものだ。チェーングリスを塗布する際には、チェーンやスプロケットに付着した汚れを落としてから作業することでチェーンのライフアップが可能になる。

たトラブルケースが少なくなつた。

70年代当時、高性能な金属材料や製造テクノロジーが確立されいなくなつたため、ドライブチェーンの本質的性能アップは難しく、大型化サイズアップによってエンジンの高出力化に対応していた時期があった。50 (500) サイズのドライブチェーンは600サイズへと大型化されていたのである。ナナハンクラスを含めた輸出モデルの多くは、80年代後半まで630サイズのドライブチェーンを標準装備していた。

その後、チェーンブッシュの作りがロール成形式(巻き式)から一体式ソリッドブッシュに進化したことで、チェーン性能やライフは飛躍的に向上。80年代末にはバイク用630サイズは過去の産物となり、現在では幅狭な520サイズチェーンを装備する大型スポーツモデルもあるほどだ。また、新品チェーンに交換した直後は、どんなに高性能でハイグレードな商品でも伸びやすい初期伸びがある」と言われていたが、現在のドライブチェーンは比較的廉価な商品でも伸びにくく、品質は確実に向上している。

ここではドライブチェーンへの理想的なグリスアップ手順を解説するが、走行中のチェーンノイズに気が付いたり、サビの発生やすでに固着気味なことに気がついた場合は、まずはスプレー式のグリスをし

スプレーグリスを利用する際の大原則は、スプレー時にグリスが飛び散ってしまうのを防ぐために(タイヤに付着させないように)チェーンの裏側にガードを用意しよう。厚紙やダンボールが良い。ウエスは巻き込みの原因になるのでNGだ。



かり吹き付けることから始めよう。定期的にメンテナンス実践しているのなら、数回に1度の割合やチェーンの汚れに気がついたときに、チェーングリスを吹き付ける前にチェーンの汚れを確実に洗い流し、その後グリスアップするのがベストだろう。実作業としては、横切りにしたペッドボルトに灯油やガソリンを少量入れ、使い終わった歯ブラシで砂利や汚れたグリスを洗い流す。このとき、メインスタンドが無いバイクは作業性が悪いので、メンテナンス用スタンドを準備すれば作業性が一気に高まる。また、洗浄後の拭き取り時にはエンジン始動せず、最終作業中は手でタイヤを回そう。このチェーンメンテナンス時に指先を怪我する例が多いのだ。

汚れを洗浄した後にはスプレーグリスを吹き付けるが、この洗浄前やグリスの吹き付け前には、試運転(出掛け)をお勧めした。ドライブチェーンは温めることで作業性が驚くほど良くなるのだ。温めたチェーンは汚れが落ちやすく、新たに吹き付けるグリスも、チェーンが温まっていると奥まで浸透しやすくなるのである。

このドライブチェーンメンテナンス時に利用するチェーングリスにも、高性能な商品を利用したいものだ。そこでお勧めなのがスーパーゾイルのチェーンルーブである。高性能エンジンオイル添加剤として高



ドライブチェーンのメンテナンス時にはメインスタンドがあると便利だ。サイドスタンド専用モデルのオーナーさんは、あると便利なメンテナンススタンドを用意するのが良い。最近は絶版車用もあり、使い勝手良好だ。CBやZ1の4本マフラーにも使える。



ドライブチェーン&スプロケットのコンディションが良いとメカノイズが発生しないばかりか、リアホイールが実にスムーズに回転し続ける。日頃からメンテナンスを心掛け、気持ち良くバイクを走らせよう。

チェーングリスを吹き付けたらチェーンの張り具合を必ず確認し、必要に応じて遊び調整を施そう。部分的に張ったり緩んだりするのはチェーンの偏伸びやスプロケットの磨耗が原因だ。交換時期だと考えよう。

ドライブチェーンを洗浄した際には、洗浄後にウエスを使い素手で汚れを拭き取る。この作業時やスプレー吹き付け時にはエンジン始動してはいけない。間違えてギヤが入ると大怪我を負ってしまう。

グリスアップ作業前に近所を数キロ走り、作業前に素手でチェーンに触れてみよう(連続高速走行後は熱いので危険)。暖機運転によってチェーンがホンワカ温かくなっているはずだ。冷えたままではグリスが浸透しにくい。

高性能ケミカルを使って愛車イキイキ!!

スーパージョイルグリース&ラバーグリース編



水分に強いリチウム石けん系グリースをベースに金属表面改質再生効果のあるスーパーゾイル成分を添加し、高い潤滑性能を誇るスーパーゾイルグリース。グリース切れによる潤滑不良でノイズが出ているプッシュやベアリングへの塗布では、高い潤滑性能を期待できる。



SUPER ZOIL GREASE 100g
金属表面改質剤配合・清音グリース
税別価格◎2200円



ブレーキペダルを取り外したついでにブレーキスイッチの作動状況や周辺パーツのコンディションも確認しておこう。摺動部に直接グリースアップしてからペダルを復元した。



ハンドルパイプエンドの曲がりや転倒時に発生したバリが原因でスロットルパイプがスムーズに作動しない例は多い。点検後、スムーズなら復元だ。タイヤを引っ掛ける部分は当然だが、スロットルワイヤーは引っ張り出してインナーにグリースを塗り込もう。



乗り放しだったバイクはもちろん、普段メンテナンスしていてもオフロード走行が多いバイクでは、スロットルハウジング内に水分やドロが入り作動性が低下している例が多い。スロットルハウジングへのグリースアップは定期的な実践項目だと考えよう。



リンク式チェンジペダルピボットやブレーキペダルピボットは、カテゴリーや機種を問わずグリースアップポイントのひとつである。リアブレーキペダルは取り外して作業しよう。



転倒によりパイプコンディションが悪くなり、スロットルが重くなっているケースが多々ある。ハンドルパイプの汚れはパーツクリーナーやガソリンを塗布したウエスでしっかり拭き取る。スロットルパイプ内の汚れもロングドライブ+ウエスで拭き取る。



フレームに溶接されているピボットシャフトにパーツクリーナーを吹きつけウエスで汚れを拭き取る。このピボットコンディションによってもそのバイクの履歴、使われ方が想像できる。



注目!!



モデルグレードによっても違うが原付クラスなら鉄部品同士で摺動。中型クラスならペダル側にプッシュが圧入され、大型モデルの中にはニードルベアリングが組み込まれる仕様もある。

ブレーキロッドのアジャストナットやタイコ部分にもグリースアップしておこう。分解せずグリース塗布できる部分だが、ナットを外してグリース塗布することで高い潤滑効果を得られる。

日頃からバイクをキレイにしているライダーの所有車両は、各部のコンディションが想像以上に良いものである。足周りがドロで汚れたときには洗車、ホコリ被りに気が付けばウエスで拭き取るなど、バイクをキレイにすることで様々な箇所を見て触れるようになり、時には不具合に気が付くようになる。キャリアの汚れを拭いて、ブレーキパッドの

減りに気が付いたり、キャリアのスライドピンから音が出たのでグリースアップするなど、様々な不具合に気が付き、同時にメンテナンスを実践。そんな繰り返しによって知らず知らずのうちにバイクのコンディションは良くなるものだ。バイクメンテナンス入門パート2では「グリースアップ」に注目しよう。グリースアップと言えば、ホイールベアリングや



SUPER ZOIL RUBBER GREASE 100g
ゴム・プラスチック用ラバーグリース
税別価格 2200円

潤滑切れで意外にも作動性が悪くなっているフロントフォークシール。インナーチューブの汚れをウエスで拭き取り、ラバーグリースを薄く塗布してフロントフォークを動作させてみよう。作動性が軽やかになるはずだ。残ったグリースはウエスで拭き取る。



ブレーキフルードの成分と同系の特合成潤滑油をベースに開発されたラバーグリース。ブレーキパーツのコンディションアップ用として安心して使える以外に、車体周りに組み込まれる各種オイルシールやプラスチック樹脂パーツの摺動部用として最適なグリースだ。



このような車体各部のグリースアップ時に利用したいのがスーパージョイルグリース&ラバーグリースである。金属同士や金属とラバー部品が擦れ合うことで発生する摩擦熱にスーパージョイル成分が反応し、金属表面を改質再生する効果を得られるのだ。過酷な状況下でももちろんライトな使い方まで、パーツ寿命を延長化できるのがスーパージョイルグリースの大きな特徴であり、リピーターが増える要因にもなっている。

✕	スロットル操作が重い	ゴリゴリ感が出る	パーツ磨耗	作動性がさらに悪化
○	スロットル操作が重い	分解	グリースアップ	作動性改善
◎	スロットル操作が重い	分解洗浄&単品作動確認	グリースアップ	作動性改善

リアショック周辺、スイングアームピボットなどへ施すことで作動性が良くなり、スムーズな走りを実現できることでも知られているが、メンテナンス入門者にとってホイールを取り外したり、スイングアームを分解するなどの作業はリスクが大きい。ここでは、僅かな所有工具でもメンテナンスできる入門者向けのグリースアップに注目しよう。部品の作動部や摺動部にはストレスが生じ、潤滑油やグリースが切れ気味になると当然ながら作動性が低下する。悪くなったことに気が付いたときは、なるべく早く潤滑油を塗布したいのだが、すぐにメンテナンスできないようなときは（通勤快速マシンなど）、応急処置として防錆潤滑スプレーを患部に吹きつけるのも良い。スプレーしても症状が改善されないときには、分解洗浄+グリースアップが必要不可欠だ。逆に、スプレーを吹き

付けたことで症状が改善されたときには「スプレーすれば良いのか!!」などと思わず、そんなときにも分解+グリースアップを心掛けよう。何故なら、潤滑切れで作動不良だった部分にスプレーして症状が改善される状況は、吹き付けたオイルによってカジリ患部の汚れが洗い流されているとも考えられる。こうなると金属同士で摺動するのも時間の問題だ。より深いカジリ症状になる前に、グリースアップを施したいものである。摺動部分の片側いずれかにゴム部品や樹脂部品が組み込まれている箇所へはラバーグリースと呼ばれる商品を使うのが鉄則だ。例えば、ブレーキピストン周りやマスターシリンダー周辺、フロントフォークシールも同様である。今回はフロントフォークシールへのグリースアップを外側から実践したが、この方法でもフロントフォークの摺動性が良くなり、乗り心地にはっきり現れた。

高性能ケミカルを使って愛車イキイキ!! 「SUPER ZOil」エコ編



4 CYCLE
NET.320ml

SUPER ZOil ECO
for 4cycle

スーパーゾイル・エコ
320ml ボトル 税抜 9800円

スポーツスター系に関して言えば、オイルフィルターを交換してもオイル容量は3リットルに満たないため、スーパーゾイル・エコの320ml ボトルを購入すれば、プライマリー&ミッションオイル交換を含めて2回分のオイル交換時に使うことができる。

✕	エンジンオイルが汚れてきた	乗り続ける	パーツ磨耗	エンジンノイズ発生
○	エンジンオイルが汚れてきた	オイル交換		エンジン快調
◎	エンジンオイルが汚れてきた	オイル交換	フィルター交換	エンジン快調



ハーレー・ダビッドソン各車はフレームのダウンチューブでリフトアップすることで安定したオイル交換作業を実施できる。2連パンタジャッキなどがあるとたいへん便利だ。



まずはオイルタンクに2リットルほど注入し、エンジン始動直後はアイドリングを続ける。オイルプレッシャースイッチの点灯→消灯も始動直後に確認しよう。スーパーゾイル・エコはオイル容量に対して5%の添加だ。



日本国内市場に於ける販売登録数が、この10数年で圧倒的に増えているのがハーレー・ダビッドソンである。大型自動二輪の新規登録ベースでは、もはや国産車しのぶ素晴らしい登録実績を記録している。40〜50代の振り返り吹きライダーの多くが、ハーレー・ダビッドソンをチョイスする二方で女性ライダーがハーレーを好む傾向も強くなっている。決して軽快なバイクとは言えないが、H/D製Vツインエンジンには、同社製エンジンのみが持つ特有の鼓動があり、それがまさに「唯一無二」。数多くのライダーを虜にしているのだ。

Vツインエンジンの鼓動を永く楽しむためには、日頃からメンテナンスに注目したいものだ。以前なら、限られたライダーのみが所有するハーレーというイメージが

ハーレーVツインエンジンはドライサンプシステムを採用しているため、エンジンオイルのコンディションはオイルタンクキャップのディップスティックで確認することができる。



エンジン暖気後に車体を直立させた状態でオイルタンクのディップスティックを確認する。フル領域いっぱいまでオイルを入れるとブリーザーから吹き返しやすいので注意しよう。

あり、さらにメンテナンスされていた車両が多かったが、その普及と同時に国産車のような扱いを受けている例も少なくないようだ。頑丈な作り、頑丈なエンジンだから「何事も無く走れるのかも知れないが、実は、雨さらしだったり、ノーマンテで乗り放しにされているハーレーが、今では決して珍しくないようだ。

現代のモデルはF1（フルイライシエクシヨク）を採用し、始動時から扱いやすさが高まっている。それでも国産車と比べれば、

過去のハーレーと同様にエンジンオイルは頻りに交換したいものである。何故なら、オイル交換時に細かなキマキマ（鉄粉による輝き）が、エンジンオイルに混ざっている様子を目の当たりにすることがあるからだ。

エンジン内部の金属部品は平滑なように見えるが、実は、顕微鏡レベルで見れば表面の凸凹や摺動キズは相当に深いものである。このような摺動面のたれが細かな鉄粉やバリとなりエンジンオイル内に混ざるのだ。オイルフィルターを装備して

いるので、ある程度以上は濾過することができる。しかし、顕微鏡レベルで見れば、細かい鉄粉は、オイルフィルターの濾紙では除去しきれないこともある。そんな細かい摺動キズを「なだらかにする」効果があるのがスーパーゾイルの特徴である。

スーパーゾイルは、部品が擦れ合うことで発生する摩擦熱に反応し、金属摺動部の表面に金属化合物を形成するのが大きな特徴である。エンジンオイルにスーパーゾイルを添加（スーパーゾイル・エコー）ズならオイル量に対して5%添加）する前は、凸凹だった金属表面が金属化合物の形成によって、より平滑な表面を取り戻し、結果的には摺動抵抗が大幅に低減する。この金属表面改質再生効果によって、エンジンパーツの摺動部分の摩擦抵抗が減り、大切なエンジンパーツの寿命アップにも大きく貢献するのである。この金属表面改質再生効果が、まさに「トリートメ



エンジンオイル容量はモデルにより異なるので作業前に確認しておこう。スポーツスターはフィルター交換次第で2リットル以上3リットル未満のようだ。一気に入れないように!!



オイル交換作業直前にプライマリー&ミッションオイルは交換したの申し送りがあったため、今回容量のスーパーゾイルをプライマリーにも注入した。



エンジンオイルはドレンプラグではなくドレンホースから排出する。以前のスポーツスターはフレームに溶接された鉄棒にホースを差し込み固定していたが、近年のモデルはホースエンドに樹脂キャップが固定される。十分な暖気後にオイルは抜こう。



カートリッジ式オイルフィルタは専用のカップレンチがあると取り外しが楽だ。フィルタ周りがかぼれたオイルで汚れないようにフィルタ脱着時は周辺を養生し、締め付け座はきれいなウエスで拭き取ろう。



新品オイルフィルターを取り付ける際には、ラバーガスケットに少量エンジンオイルを塗布し、カートリッジ内にはあらかじめエンジンオイルを半分ほど注入しておくのがよい。

よりスムーズかつ気持ち良くクルージングするためのエンジンオイル添加剤であるのと同時に、大切なエンジンパーツの「延命」という意味でも、スーパーゾイルは良い結果をもたらしてくれる。空冷大排気量エンジンを搭載したハーレー・ダビッドソンでは、この「ゾイル効果」を体感しやすいとの声も多い。



高性能ケミカルを使って愛車イキイキ!!

「2サイクル用シンセティックグズイル」編

ZOIL



SYNTHETIC ZOIL for 2cycle

1000ml税別価格◎4300円

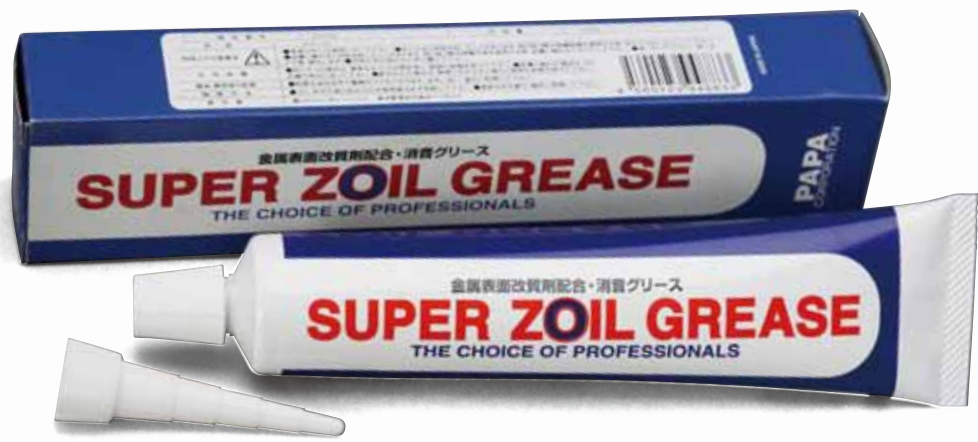
高性能な100%化学合成2サイクル用エンジンオイルにスーパーゾイルをあらかじめ添加して販売している商品が2サイクル用シンセティックゾイルである。懐かしい「赤オイル」を採用し、燃焼香にもこだわっている。2サイクルエンジンを搭載した四輪車ファンの間でも大好評だ。決して安価ではないが、エンジン性能を維持しパーツの寿命を延ばすという点で高く評価できるエンジンオイルである。

現在、2サイクルスポーツ車や70～80年代に一世風靡したファミリーバイクやオフバイクを愛車にしているユーザーは、明らかに2サイクルエンジンファンだろう。そんなユーザーだったら使って欲しいのが2サイクル用シンセティックゾイルだ。

✕	オイル残量点検忘れ	走り続ける	焼き付く	エンジンオーバーホール
○	オイル残量点検	走る		普通に快調
◎	オイル残量点検	スーパーゾイル添加	耐摩耗性向上	各部作動性良好



車体各部にある作動摺動部の潤滑も極めて重要だ。ノーオイル、ノーグリスのままでは走らせ続け、パーツが摩耗しガタガタになってしまうケースもある。金属パーツの寿命アップに効果的なのがスーパーゾイルグリスだ。100gソフトチューブ入り税別価格2200円。



定期的にメンテナンスしていたのに、先やツリリング先でエンジン不調に陥り、それが日暮れ後で、しかもひとりぼっち…… 実に切ない経験をしたことがあるライダーもいることだろう。現代の高性能バイクは、もはやオイル交換をサボってもガソリンを注入していれば、走り回れる。ところが、絶版車や旧車の中でも、2サイクルエンジン搭載モデルは、絶対調子直後にガタ下りになり、突き落とされてしまうような気分を遭遇するケースが珍しくない。例えば、高速道路を走行中に追い越したためスロットルをクイッと捻ったところ、突然のタキツキ(または焼き付き)でリアタイヤからはギュー、ギューとロック音が……。こんなときには慌てずにクラッチを握って後方確認しつつ路肩にバイクを停車させよう。エンジンが冷えてからプラグ点検すると、溶けたアルミ粉が電極周辺に付着して灰色になっていることがある。2サイクルエンジンの焼き付きとタキツキ系トラブルの原因の多くは、スロットルを急激に開いた瞬間に起こるケースが多く、その原因は、二次空気の吸い込みによるものが多い。



シリンダーやクランクベアリングだけではなく、金属表面改質再生効果はオイルポンプの作動性にも現れる。分離給油の2サイクルエンジンにとってオイルポンプは心臓だが、その作動性維持に極めて効果的だ。長年の利用でオイルポンプの作動性が悪くなっている例が多くなっている。



各種ケーブルのコンディションが低下すると気持ち良く走れなくなるが、そんなケーブル類は可能な限り洗浄し、金属表面改質再生効果が高いスーパーゾイルオイルやグリスを塗布するのが一番だ。単に塗布するのではなく事前のパーツ洗浄によって高い効果を得られる。



走行中に違和感があった際、また、明らかにエンジン不調で後輪がロックしたような際には、エンジンを冷やしてからプラグを外し、スポイドでエンジンオイルを注入してからキック作動してみよう。軽いタキツキなら復旧できるが、その際にスポイドで強制潤滑しておくダメージを減らすこともできる。



次に多いトラブルが、分離給油オイルの入れ忘れである。分離給油システムが普及する以前の混合ガソリン時代は、ガソリンに規定比率でオイルを混ぜて使うのが原則だったが、比率を間違えたりエンジンオイルを入れ忘れてしまったりと焼き付いてしまう。比較的高年式モデルでも、イタリヤンスクーターのベスバには混合仕様が多いため、ガソリン給油時には要注意である。分離給油エンジンは、別体タンクからエンジンオイルが落下し、オイルポンプを経由してエンジンオイルが各シリンダーへ供給される。そして、エンジン回転数及びスロットル開度量のメカニカルバルブをもとに、規定の送給量で吸入時のガソリンにオイルを混ぜているのだ。つまり分離給油式の場合は、このオイルポンプのコンディションがエンジン性能に与える影響が実に大きいのである。回転軸の先端にカム山を設けてスプリングを上下させ、それをプランジャ機能としてオイル供給(圧送)しているのだが、各作動部分は金属同士が擦れ合いメカニズムが成立している。そんな状況を知れば、高性能エンジンオイルを使い、たくなつて当然だろう。



2サイクルエンジンと言えば、ピストンやシリンダーやクランクシャフトベアリングの焼き付きトラブルが有名だが、実は、オイルポンプの不調にもよってトラブルを招いているケースも多々ある。本来ならスムーズにフルスロットルするはずのプランジャが、ボディとの回転抵抗によってフルスロットルしていないケースも実は多いのだ。そんな状況を踏まえても、金属表面改質再生効果が高いスーパーゾイルシリーズ商品の利用価値は高い。ピストンとシリンダーの摺動抵抗を減らすのはもちろん、クランクベアリングの耐摩耗性を高めることができる。肝心なオイルポンプの作動性を高めることができるのである。最新のモデルでは、F1仕様燃料噴射化によってガソリンタンク内に燃料ポンプを搭載する例が増えているが、そんな燃料ポンプの作動性をより良く維持できる添加剤としても、2サイクルエンジン用シンセティックゾイルは注目されている。4サイクルエンジンでもガソリンに僅かに混ぜることでも燃料ポンプ内部の摺動性を高めることができるのだ。このように、最新モデルから2サイクルエンジン搭載したファミリーバイクやソフトバイクまで、あらゆる場面で信頼の高性能を発揮してくれるのが2サイクル用シンセティックゾイルである。

高性能ケミカルを使って愛車イキイキ!! 「スーパーゾイル・スプレー」編



長年乗られていなかったバイクのエンジン・始動前はもちろん、くたびれ気味なエンジンの内部パーツに直接吹き付けることで、潤滑性の向上を図れるのと同時に、現状コンディションを明確に知ることができる。

車体各部だけではなく、エンジンパーツの組み立て時には初期馴染みを良くし潤滑性を高めるオイルケミカルとして高い人気を誇るスーパーゾイル・スプレー。このゾイル成分を含有したチェーングリスもリピーターが多い商品だ。

×	動きがやや渋くなる	走り続ける	動きが悪くなる	パーツのダメージ大
○	動きがやや渋くなる	オイル注油	動きが回復する	パーツのダメージ小
◎	定期的にオイル注油	常にコンディション良	パーツが摩耗しにくい	ライフ向上



車体各部がスムーズに動かなければ、いくら高性能なバイクでも、気持ち良く走ることはできない。

例えば、スロットルケーブルの作動性や操作性が今ひとつ良くないと、気持ち良く走れないどころか安全性も著しく低下してしまふ。旧車や小排気量車の場合、前後ブレーキにドラム式が採用されている例が多く、ブレーキケーブル（ブレーキワイヤー）の作動性が低下すると、ブレーキフィールやレバータッチが悪くなり、ブレーキ性能までもが低下してしまふケースが多い。ケーブルの作動性が悪くなると



ここではスーパーカブのタペットキャップを外してカムシャフトやロッカーアーム周りにスプレーを吹き付けた。寸法合致した良質工具を使うのももちろん、ガタが出るときにはウエス越に工具を使うのも良い。



レキシューの戻りが悪くなり、ブレーキシューとライニングの間で引き摺り症状が発生する。その引き摺りでシュー表面が過剰に発熱し、ブレーキの効きが悪くなってしまうのである。

例えば、そのような状況下でブレーキケーブルにオイルを注油すると、ケーブルの作動性が回復し、ブレーキレバーのリリースと同時にブレーキシューも即座に戻り、無駄な摩擦が無くなり性能改善されるケースが多い。

ブレーキケーブルだけではなく、ドラムブレーキの場合は、シューを動作させるブレーキカムのコンディションによってもブレーキ性能が左右される。ケーブルへのオイル注油後でも引き摺り症状が改善されないような場合は、思い切ってブレーキドラムを分解して、ブレーキカムの作動状況を確認してみよう。すり減ったブレーキシューの粉がカム周辺に堆積し、カム軸に噛み込み動きを悪くしているケースも



スロットルのスライド部分は粘度が低いオイルよりも保持性が高いグリースを塗布するのがベターである。スーパーカブのスライドスロットルにはスーパーゾイルグリースを利用した。



ケーブルインジェクターも着実に進化している。昔はクラッチケーブルのような太いケーブル専用だったのに対し、現在では細いスロットルケーブルに対応した商品もある。



ブレーキレバーの作動レスポンスが今ひとつだったため、フロントブレーキケーブル内にもオイルスプレーを吹き付けた。あまりに汚れが酷いときにはパーツクリーナーで内部洗浄した後にオイルスプレーを吹き付けるのがベストだ。



スロットルワイヤーの作動性が良くなったことで操作感が格段に向上し、スライドスロットル式でも比較的スムーズにリターンするようになった。ビフォーアフターの違いは明らか!!

SUPER ZOil SPRAY

280ml 税抜価格◎2200円

車体各部の作動部や摺動部にシュッとひと吹きすることで作動性を回復するのが潤滑オイルスプレーの特徴である。そのオイルにスーパーゾイル成分が含有しているため、より一層「潤滑の質」を高めることができる。

設計が古く摺動抵抗が大きな旧車エンジンでは、特に大きな効果を体感できるとして、数多くの旧車オーナーから絶大な支持を受けているスーパーゾイル。現代の高性能エンジンでも、摺動抵抗が低減することで、よりスムーズにエンジンが回り、連続高速走行時に気になっていたバイブレーションが、スーパーゾイル添加後は明らかに低減されたとお話は多い。

ここまでは、しばらく始動していなかった（乗っていなかった）4サイクルエンジンのカムシャフトやロッカーアーム周辺にスプレー。車体に関しては、動きが今ひとつ良くなかったスロットルケーブルやフロントブレーキケーブル内にオイルを吹き込んでみた。作業後のケーブルは作動性が改善され、特にスロットルケーブルは、スライド式ながらスムーズに回転リターンするようになったほどである。この作動性維持にもスーパーゾイル・スプレーやスーパーゾイル・グリースは欠かせない存在である。

メンテナンスの入門用ケミカルとしても最適なのが、スーパーゾイル・スプレーである。エンジン部品用としての使い勝手はもちろんだ、車体各部もひと吹きで効果を得られる。メンテナンスのプロから、ディーパーなサンメカ、そしてサンメカ入門者まで、幅広くユーザーの期待に応えてくれるのが、スーパーゾイル・スプレーである。



ケーブルエンドにケーブルインジェクターツールをセットしてオイルスプレーを吹き付けよう。各種ケーブル内にオイルを巡らせることで作動性が驚くほど高まる。反対側からオイルのしぶきが出ればOKだ。

多々あるのだ。ドラムブレーキを分解した際には、圧縮空気でカーブロー、もしくは、パーツクリーナーで汚れやスラッジを洗浄した後に、カム作動軸の摺り合わせを行い、グリースアップするのがベストだろう。

バイクを走らせていくと、ブレーキレバーやクラッチレバー、ときにはブレーキペダルのレスポンスが悪いことに気がつくことがあるが（特に他人のバイクに乗るときには気が付くことが多い）そんなときにはパーツを分解せず、まずは患部に向けて外側から潤滑用のオイルスプレーを吹き付ける（ズル先端を患部に向けて隙間にスプレーする）習慣を身に付けるのが良い。本来なら分解して周辺状況を確認し、必要に応じてカジッた部分を磨いて（細かなサンドペーパーなどで）グリーンアップを施すのがベストなのだが、作動不良に気が付きながらも「そのまま走り続けてしまふ」のが、もともと良くない行為なのだ。「く僅かな量でも作動不良患部オイルが到達すれば、驚くほ

ど動きが改善されるケースもある。そんな状況でも使い勝手が良い商品として数多くのリピーターに愛されているのがスーパーゾイル・スプレーである。金属表面を改質再生する効果を持つスーパーゾイル成分を添加した、高品質な化学合成オイルをスプレー缶に詰めて販売しているのがこの商品である。

金属同士が擦れ合い、ツルツルになった摺動面を顕微鏡レベルで見ると、実は、想像していた以上に表面が凸凹かつガサガサになっている。スーパーゾイルは、金属同士が擦れ合うときに発生する摩擦熱に反応し、金属表面の荒れを平滑にする性能を持っているのが大きな特徴である。この金属表面改質再生効果はトリートメント効果によつて、摩擦抵抗を金属表面レベルで低減し、摺動抵抗を大きく期待できるのだ。高温になる場所であればあるほど、その効果は顕著に表れるよつた。

ドライブチェーンにはコレ

スーパーゾイル成分を配合したチェーングリス。このチェーングリスを利用することで前後スプロケットの減りが著しく低下した実例がある。メーカー系レーシングチームでも採用例が!!



高性能ケミカルを使って愛車イキイキ!!

「セミシンセティックオイル10W-40」編



しばらくオイル交換しておらず、注入量も多かったせいで、本来の走りではなくエンジンの回り方が重々しかったスーパーカブ。オイル交換後には気持ち良く軽やかなエンジンフィーリングに変わった。



エンジンオイルを確認し、必要に応じてオイルを追加注入しよう。この段階で新しいオイルが汚れ気味になっている際には、次のオイル交換時にフラッシングを行うのがベストである。

✕ エンジンオイルが汚れてきた	乗り続ける	パーツ磨耗	エンジンノイズ発生
○ エンジンオイルが汚れてきた	オイル交換		エンジン快調
◎ エンジンオイルが汚れてきた	オイル交換	オイル量厳守	さらにエンジン快調



オイル交換と同タイミングでスパークプラグの点検も実施しよう。プラグレンチを掛ける前にプラグ周囲の汚れはエアブローもしくは洗車にて洗い流そう。ススけていたり汚れが堆積しているときにはワイヤブラシでクリーンナップしよう。



プラグを復元してキャップを差し込む前に、ハイテンションコードとプラグキャップの接続がしっかり行われているか確認しておこう。キャップを押し付けながら回して確実に固定しよう。



① SEMI SYNTHETIC ZOIL [10W-40] セミシンセティックオイル (半合成)

1000ml ボトル◎税抜 3500円
スーパーオイルが添加され、販売される半合成エンジンオイル。原付クラスの小排気量モデルの場合は、エンジンオイル使用量が1リットルに満たないケースが多いので、1000ml ボトルが便利だ。最後の一滴まで無駄なく使いたい。エンジンパーツの分解時は組み立てオイルにも使える。

② SUPER ZOIL ECO for 4cycle スーパーオイル・エコ (添加量5%)

200ml ボトル◎税抜 6800円
普段から使っている好みのブランドオイルと混ぜて利用するスーパーオイル・エコ。エンジンオイルの使用料に対し5%の添加で十分なオイル効果を生揮。入れ過ぎても効果に違いは無いので規定添加量で十分だ。2サイクルエンジンはミッション用ギヤオイルにも使える。

し、スーパーカブのオイル交換を実践してみた。長期間オイル交換せず、しかもオイル注入量が多かったため、オイル交換後の軽やかなエンジンフィーリングはオイル交換前とは別物。特に、追い越し加速時のスムーズさは気持ち良いものに変貌した。金属部品の摺動部に発生する摩擦熱がスーパーオイル効果によって低減され、エンジンオイルのライフアップも期待できるようになる。大切なエンジン部品を長持ちさせることができるスーパーオイルは、好調なエンジンコンディションを末永く保ちたいと願う愛車家にとっても嬉しい高性能エンジンオイル添加剤であり、もはや無くしてはならない存在だと語るファンも数多い。排気量に関わりなく、バイクを大切にしたいなら、是非ともスーパーオイルを試してみよう。

オイル交換しようとしたら、プラグを緩めたところ「コップ半分くらいしかエンジンオイルが出て来なかった!」といった経験、ありませんか? 便利なバイクは便利に使われ続けるのが宿命であり、メンテナンスは「の次」にされてしまうものである。部品量販店のサービス部門でメカニック経験がある



ディップスティックでオイル量を確認するときにはキレイなウエスでオイルを拭き、同時にエンジンオイルの臭いも嗅いでみよう。キャブのオーバーフローが内向きに起るとエンジンオイルにガソリンが混ざってしまい面倒なことになる。

本誌スタッフの話によれば、「オイル交換に依頼でビートに入ってきたバイクのドレンプラグを緩めたところ、お猪口一杯くらいしかオイルが出て来なかった、酷いものでは真黒なオイルがポトポトとこぼれ落ちてくる程度!」といった事例は何度も経験した事だ。そんなバイクの多くが4ミレ系モデルであり、なかでもスーパーカブは、そのような事例が何度もあった。オイル交換以前に、何らかの問題があるからエンジンオイルを消費してしまうのだと思うが、オイルが過度に少なくなると何故だか走ってしまったり4ミレには驚きと同時期に素晴らしさすら感じてしまう。逆説的なお話だが、仮に、しっかりとメンテナンスを行えば、それこそ10万キロオーバーも夢ではないところか、それが当たり前なのが4ミレであり、その頂点に君臨するスーパーカブなのだ。

このスーパーカブ90の場合は、前回のオイル交換から数年が経過。しかもディップスティックでオイル量を確認すると、アップレベルを明らかに超えるほど多くのオイルが注入されていた。小排気量車の場合

は、オイル量が多過ぎるとクランク運動時にポンピングロスが発生し、結局、スムーズに回らないエンジンになってしまう。実は、パワフルな大排気量エンジンと比べ、非力な小排気量エンジンでは「オイル注入量」や「オイル粘度」が走行性能に大きな影響を及ぼすことが多い。ここでは実際にあった具体例をお話しよう。4ミレレースの際に、いつもならもっと早いラップタイムで走れるライダーが予選前に悩んでいた。お話を聞くと、いつものようにタイムが出ず、予選通過もままならない状況らしい。現場でそんなお話を聞いたので、ディップスティックのオイル量を確認させて頂く。アップレベルを大きく超え、しかも夏場なので硬い粘度のエンジンオイルも利用していた。

ここで、5V20の超低粘度系高性能エンジンオイルを予選時に使い、オイル注入量はディップスティックレベルの下限ギリギリにする。ことを進言した。予選終了後、ピットでお話を聞くと、言われた通りにオイル交換したら、予選は楽々通過!! しかもポーターライニングギリギリどころか、上位で予選通過できた事だ。エンジンはスムーズに回り、練習走行時に感じた重々たるさはまったく感じなくなった事だ。サーキットの場では、「ラップタイムで比較」できる現場では、その違いが数字になって現れる

入れ過ぎはトラブルの原因!!

エンジンオイルの注入後に始動し、エンジン停止後にオイル量を確認したところ、アップレベルのギリギリだとかアップレベルを「超えてしまった!」といった例がよくある。「多いのだから問題無い!」と、そのままにいませんか? オイル量が増えるとクランクケース内の空気室容積が減り、それが原因でブリーザーからオイルを吹き返してしまうことがある。オイルの吹き返しが無くてもオイル量が多いとポンピングロスの原因になり、エンジンが気持ち良く回らなくなる。オイルを入れ過ぎた時にはフロントフォークの油面調整ゲージなどでオイルフィルター部から不要なエンジンオイルを抜き取る。

